

2015年11月22日京都大学地域研究統合情報センター、共同研究個別ユニット（大澤広嗣代表）「仏教をめぐる日本と東南アジア地域—断絶と連鎖の総合的研究」第3回研究会 15時30分—18時、

村嶋英治報告「明治期渡タイ日本人僧侶」

I. 明治期の渡タイ僧侶一覧

II. 彼らはタイの何処で、何をどう学び、修行したか？

資料

『令知会雑誌』第47号（1888年2月21日発行）122—127頁「暹羅大使問対略記」

『令知会雑誌』第48号（1888年3月21日発行）185—191頁「暹羅大使問対略記第二」

長井真琴（ながい・まこと,1881-1970）「我国に於ける巴利仏典研究の今昔（上）、（中）、（下）」、『中外日報』1930年3月12日、13日、16日連載）

「座談会「学問の思い出」— 長井真琴博士をかこんで」（東方学会『東方学』第30輯、1965年7月号、169—192頁）

I. 明治期の渡タイ僧侶一覧

織田得能（(1860-1911,大谷派）

1888年2月10日、11日両夜、島地黙雷（1838-1911、本派）、寺田福寿（1853-1894,大谷派）、平松理英（1855-1916,大谷派？）は、鹿鳴館で暹羅大使プレイヤー・パーサコーラウオン（พระยามาตกรวงศ์,1849-1920）にタイ仏教について問対、大使は日本人青年僧のタイ留学を勧奨。2月12日大使は築地本願寺に参詣、「編者（織田得能）は築地別院にて大使に面謁し親しく暹羅行の事を約せり」（令知会雑誌第47号、1888年2月21日号、117頁）。渥美契縁（あつみ・かいえん）グループ。

善連法彦（よしつら、1864-1893,真宗仏光寺派）バンコクに約5ヶ月、セイロンに2年3ヶ月程度滞在（下記、長井真琴の回想参照）

織田と善連は、1888年2月末プレイヤー・パーサコーラウオンに同行し渡タイ

釋宗演（1860-1919,臨濟宗円覚寺派管長）1889年7月在バンコク10日間、ワチラヤーン法親王に弟子入りシタマユット出家する目的成らず。

上村観光（かみむら、曹洞宗、1873.3-1926.6.11自殺）哲学館で学んだ後、早くとも1897年7月末に日本を発ってバンコクに向かい、1898年2月には日本に帰国した。在タイ期間は、最大半年に過ぎない。

概旭乘（おおむね、浄土宗、1871-1937）ワット・サケート、1897年7月浄土宗学本校高等正科卒。岩本千綱の講演に影響受け1898年1月初、渡タイ私費留学、1899年7月浄土宗派遣留学生に採用される、当時の同宗派遣（海外）留学生は荻原雲来1869-1937、渡辺海旭1872-1933,など4名に過ぎず超エリート、織田得能に対抗心強し。1905年3月帰国、1906年2月暹羅殖民開教を名目に渡タイするも2年で放棄、以後俗人として終身在タイ。**遠藤龍眠**（曹洞宗、1873?—1916? マニラで死没）1898—1900 ワット・サケート、1903年マニラに南天寺を開く。

仏骨奉迎 1900年6月、大谷光演（大谷派）、藤島了穩（本派）、日置黙仙（曹洞宗）、前田誠節（1845-1920.9.25,天台妙心寺派）など多数

溪道元（黄檗宗、1877-1966）ワット・サケート、台湾から盤谷へ、1905年—1912年在タイ、1956年宇治黄檗山万福寺管長

武田恵教（大谷派）厦門大谷派布教使、1907年厦門からタイに来て華僑に布教。サムットソクラーム、ラーチャブリー、ナコンパトムなどで華僑を使って布教、華僑は入信すれば日本領事の保護を受けられ、犯罪を犯してもタイ官憲に逮捕されることはなく徴兵もされないなどと詐って高額の金を取り、地方で問題に。

宮本英龍（本派）汕頭布教所本派布教使、1907年タイ華僑布教

五世王は、1908年2月24日に、布教の背後に日本政府が関係しているとは思えないが、中国における布教権問題と同様の問題が将来生じないとも限らないので警戒せよと指示。

釈興然（真言宗 1849-1924.3.15）1907年11月28日横浜発、在タイ約一年、定住せず。

水野泰澄(浄土宗)、台湾での布教使をクビになってタイへ

松岡寛慶（臨済宗妙心寺派、1876—1934）、**釈大真**（真言宗東寺派了徳院住職、1872年12月又は1873年1月—1916年3月ビルマにて没、「渡印日誌」が梅尾コレクション（カルフォルニア大学 ULLA 図所蔵）にあり。釈大真は『密教大辞典』に項目見出しのみ有り）1910年11月23日～12月10日在タイ、ワット・サケート滞在

日置黙仙（曹洞宗管長、永平寺貫首 1847—1920）・**来馬琢道**（曹洞宗）1877-1964、1911年12月初の六世王の戴冠祝賀のために来タイ。

立花俊道(曹洞宗、駒沢大学長 1877—1955)、1918年

立花俊道（駒澤大学教授）「暹羅の宗教」（『世界現状大観IX、新興国篇』、新潮社、1931年

7月31日発行、252—262頁)

Ⅱ. 彼らはタイの何処で、何をどう学び、修行したか？

織田得能のケース、釋宗演、概旭乗との比較

仏教教育制度ない、印刷された仏典も未だない、織田は仏教に精通したパーサコーラウオン
の下で主に英語学習？

タイ文字版三蔵の初印刷は、1892年、五世王即位25年記念。(1927年に6世王在位15周年記念で、2回目のタイ文字三蔵印刷)

生田(織田)得能「暹羅滞在中の見聞」(『東京地学協会報告』第12巻6号、7号、9号、1890年9月号、10月号、12月号連載)は、下記英文論文(Siam)から正確引用
J. M'Carthy (Superintendent of Surveys in Siam), "Siam" in *Proceedings of the Royal Geographical Society and Monthly Record of Geography, N. S.* Vol.10 no.3, March 1888, pp.117-134

เจ้าพระยาทิพากรวงศ์มหาโกษาธิบดี(ชำนาญนาค)ChaoPhya

Thipakon, 1813.10.1-1870.6.12 หนังสือแสดงกิจจานุกิจ 1867年11月21日付

Kichanukit (A Book Explaining Many Things)、キリスト教布教師との知的交流によって得たキリスト教との比較から仏教の優位性を主張

Henry Alabaster (Interpreter of H.B.M. Consulate-General in Siam), translated with remarks, *The Modern Buddhist: being The Views of a Siamese Minister of State on His Own and Other Religions*, London, Trübner & Co., 1870, 91p.

Henry Alabaster (Interpreter of Her Majesty's Consulate-General in Siam, Member of Royal Asiatic Society), *The Wheel of the Law. Buddhism Illustrated from Siamese Sources by The Modern Buddhist, A life of Buddha and An Account of the Phrabat*, London, Trübner & Co., 1871, 323p.

เจ้าพระยาทิพากรวงศ์มหาโกษาธิบดี(ชำนาญนาค)ChaoPhya

Thipakon, 1813.10.1-1870.6.12 หนังสือแสดงกิจจานุกิจ 1867年11月21日付

Kichanukit (A Book Explaining Many Things)、キリスト教布教師との知的交流によって得たキリスト教との比較から仏教の優位性を主張

Henry Alabaster (Interpreter of H.B.M. Consulate-General in Siam), translated with remarks, *The Modern Buddhist: being The Views of a Siamese Minister of State on His Own and Other Religions*, London, Trübner & Co., 1870, 91p.

Henry Alabaster (Interpreter of Her Majesty' s Consulate-General in Siam,Member of Royal Asiatic Society),*The Wheel of the Law. Buddhism Illustrated from Siamese Sources by The Modern Buddhist, A life of Buddha and An Account of the Phrabat*, London,Trübner & Co.,1871,323p.